

第53回藤沢市地産地消推進協議会及び
令和4年度第2回藤沢市地産地消推進事業実行委員会 議事録

1 開 会

竹中補佐

それでは、定刻となりましたので、ただいまから第53回藤沢市地産地消推進協議会を開催させていただきます。

本日司会を務めます農業水産課の竹中と申します。

よろしくお願いいたします。

なお、本会議につきましては、会場とオンラインでの参加を併せて会議を開催させていただきます。

次に、会議中のご発言についてでございますが、会場の方につきましては、挙手をしていただき、事務局職員がマイクをお届けしますので、マイクを使って名前を名乗っていただいてからご発言くださいますようお願いいたします。

オンラインでの参加の方につきましては、zoomの「手を挙げる」機能を使用させていただきますようお願いいたします。なお、発言の際はゆっくり、はっきりと発言していただきますようお願いいたします。

本日は19名の協議会委員のうちオンラインでの参加の方は現時点で3名、会場での参加の方が9名で合計12名の方がご出席いただいております。藤沢市地産地消推進協議会規則第5条に規定する要件で会議が成立しておりますことをご報告させていただきます。

また、本日ご都合により欠席の方がございますのでご報告いたします。

藤沢市畜産会から選出の和田委員、藤沢商工会議所から選出の大島委員、江の島片瀬漁業協同組合から選出の北村委員、藤沢市漁業協同組合から選出の葉山委員、横浜丸中青果株式会社から選出の山田委員となっております。

なおオンラインでの参加予定の藤沢青年会議所の山崎さんにつきましては接続が整っていないような状況となっております。また、石井委員におかれましては後ほどご出席されるということでお伺いしております。

次に、本日の議題に入ります前に、まずお手元の資料の確認をさせていただきます。

① 次第（裏面は名簿）

② 資料1 藤沢産利用推進店認定状況について

③ 資料2 令和4年度地産地消に関するアンケート調査結果

- ④資料 3-1 令和 4 年度藤沢市地産地消推進事業実行委員会収支決算書
- ⑤資料 3-2 令和 4 年度藤沢市地産地消推進事業実行委員会収支決算書内訳
- ⑥資料 4 スライド資料

となります。なお、机の上には閲覧用として、第 5 期藤沢市地産地消推進計画を置かせていただいておりますので、必要な時にご覧いただきますようお願いいたします。

資料について不足等ございませんでしょうか。

本日の会議につきましては、すべての議題を公開としておりますが、傍聴希望者はありませんでした。

2 委嘱状の交付

竹中補佐

それでは、この度、委員の変更がございますので、ご紹介をさせていただきます。

藤沢市商店会連合会より選出していただいております鈴木委員が退任され、青木 明彦（あおき あきひこ）様が委員となります。

この度、藤沢市地産地消推進協議会の委員としてご就任いただく皆様に、饗庭部長から委嘱状を交付させていただきたいと存じます。

それでは、お名前を読み上げさせていただきますので、どうぞその場でご起立をお願いいたします。

（委 嘱 式）

①青木 明彦（あおき あきひこ）様

※饗庭部長が席前に移動し、委嘱状を読み上げて交付。

続きまして、新たに委員になりました青木委員に自己紹介をお願いしたいと思います。それでは、お願いいたします。

青木委員

藤沢市商店会連合会の青木と申しますどうぞよろしくお願い致します。

昨年の10月1日から就任をいたしました どうぞよろしくお願い致します。

竹中補佐

それでは、議題に入らせていただきますが、本日の会議の記録を作成する関係上、発言内容を録音させていただいてお

りますので、あらかじめご了承をお願いいたします。
ここからの進行につきましては、立石会長お願いいたします。

3 議 題

立石会長

それでは、議題に入るにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

今年度よりこちらの藤沢市の地産地消推進協議会の会長職を仰せつかっております日本大学の立石と申します。よろしくをお願いいたします。本日年度末の大変お忙しい時期かと思いますが、このように対面またオンラインでお集まりいただきまして大変ありがとうございます。本日は報告がメインと伺っております。皆様方のご協力により、できるだけスムーズな進行ができるようぜひご協力いただければと思います。

どうぞよろしくお願いいたします。

それでは「議題（１）藤沢産利用推進店の進捗状況について」、事務局から説明をお願いします。

千葉（事務局）

議題（１）藤沢産利用推進店認定状況についてご説明させていただきます。初めに本協議会に新たに就任された方もいらっしゃると思いますので、藤沢産利用推進店の制度について簡単に説明させていただきます。

藤沢産の農水産物及び加工品を積極的に利用する小売店・飲食店・宿泊施設・移動販売店等を、藤沢産利用推進店として認定して、地産地消の取り組みを市民に周知することで、藤沢産への理解と地産地消の意識向上につなげ、地産地消の推進を図っていくことを目的としております。こちらの目的につきましては、第5期地産地消推進計画の長期的に取り組む施策として、「藤沢産農水産物等の需要拡大・供給強化」において「利用推進店の充実」ということを目標としております。

それでは資料1「藤沢産利用推進店認定状況について」をご確認ください。1ページめくっていただいて、「1 藤沢産利用推進店の認定について」でございますが、藤沢産利用推進店の認定申請がありましたので、藤沢産利用推進店認定要綱に基づき、次の日程で認定審査を行っております。

2の審査会の日程でございますが、第1回を2022年7月29日。第2回を2023年3月24日に行っております。第1回審査会では、1キュン2店舗の認定審査を行い、基準を満たしておりましたので認定しております。店舗の詳細については表をご覧くださいと思います。第2回審査

会では、認定更新審査を行い、ふたキュンは33店舗、ひとキュン56店舗認定更新しております。区分変更1店舗については、ひとキュンからふたキュンへ変更しております。

続きまして2ページにお移りいただきまして、「3 登録店舗数及び廃止について」をごらんください。(1)登録店舗数の表では、2023年3月24日の審査会後の登録店舗数を反映させたものでございます。表の1番右下の欄、グレーで囲われている場所をご覧ください。こちらが3月24日現在、登録店舗数は1キュン58店舗2キュン33店舗の合計91店舗となっております。

次に3ページにお移りください。こちらは、年度末登録数と新規登録数をグラフにしたものです。年度登録数と新規登録数の関係につきましては、令和3年度と令和4年度を比較したところ、5店舗減の91店舗となりました。令和4年度の91店舗の内訳としまして、下のイの表をごらんください。令和4年度はふたキュンが33店舗で前年比プラス1店舗の増となっております。年々2キュンの店舗数は増加している形となっております。続きまして、4ページをごらんください。今年度の廃止店舗について記載しております。廃止店舗数は合計で7店舗となっております。詳細につきましては、閉店が4店舗、店舗の休業が1店舗、認定取り消しが2店舗ありました。認定取り消しの理由としましては、海水浴場の閉鎖のためと、藤沢産利用推進店に登録するメリットがないためです。

次のページ5ページ以降につきましては、登録店舗数の一覧となっております。登録しております91店舗の情報について記載しておりますので、ご覧いただければと思います。利用推進店認定状況につきまして事務局からは以上となります。

立石会長 ただいま、事務局から説明がありましたが、ご質問やご意見などがございましたらお願いします。

湯澤委員 4ページの廃止店舗一覧の「廃止理由」にメリットを感じないと記載がある。そういう方々がどういうことがあればメリットを感じてもらえるかというのは聞いてありますか。

千葉（事務局） そちらについては聞いてはいないんですけども。今年度は藤沢駅周辺と江ノ島駅周辺の食べ歩きマップを作成しております。また、市の広報で利用推進店の情報などを市民に広く周知しているところでございます。

湯澤委員

はい分かるんですけども。ではなくて各店舗さんに「こういうものだったらメリットとして持ってもらえるか」というところをお聞きしたいんですけども。

廃止される店舗さんの方から「こういうことがあれば店舗としてメリットを感じられるから続けてみよう」とか、そういう話としては聞いてますかということなんですけども。

千葉（事務局）

今回廃止となった店舗以外にも、登録するメリットが感じられないため廃止しようかなというご連絡があったんですけども、広報等で広く市民に周知することやマップを作成しているので続けてみてはいかがですかというところを案内したところ、続けさせていただきますという話をいただいております。

立石会長

よろしいでしょうかありがとうございます。

店舗の方とコミュニケーションが取れてればいいかなと思いますので、引き続きあまり減らないようによろしくお願いいたします。

他にはございますでしょうか？Zoomでご参加の方は特にないでしょうか？大丈夫でしょうか？特にないようですので次の議題の方に移りたいと思います。議題の二つ目になります。令和4年度参照に関するアンケート調査結果についてということで、これも事務局から説明をお願いいたします。

相原（事務局）

こちらの議題に関しましてはお手元でございます、資料2「令和4年度地産地消に関するアンケート結果」こちらお手元にご準備いただいてご説明させていただきます。

こちらのアンケート調査に関する概要が1ページ目に記載がございます。まずこちらのアンケートにつきましては、今年度で3年目の取り組みとなります。

こちらの目的といたしましては（1）に記載があります。地産地消および藤沢産農水産物に対する意識や関心、消費者の購買動向などについて調査し、今後の政策や事業の検討の参考とするものとして取り組みを行っております。実施方法としましては、郵送でのアンケートとなっております。調査設計につきましては（3）に記載のとおりとなっております。

続いて（4）につきましては、今年度実施をした中での回答状況なんですけれども。対象者3,000人に送りまして、期限内での回答があったのが1,354人の回答でした。回答率は45.1%となっております。このうち回答が紙での返答があっ

たのが1,010件で、WEBで回答されたのが344件となっております。Webでの回答は約25%となっております。対象者の内訳ですとか、調査結果を見る上での注意事項につきましては(5)(6)に記載がございますので、後ほどご覧いただければと思います。

続いて2ページ以降に各設問の集計結果の記載がございます。まず2ページ目につきましては、回答をいただいた方の性別ですとか、年齢、お住まいの地区、世帯構成等が記載されております。

次にめくっていただきまして、3ページ目以降が実際に地産地消に関するような設問の集計結果が載っております。本日の会議時間等もありますので、詳細なデータにつきましては後ほどゆっくり御覧いただければなと思うんですけども、こちらの会議では要点といいますか、数値的に気になったところをお話させていただければと思います。

全体的な傾向ですね、まだ他の年度との比較ですとか、いつもですと年齢とお住まいの地域のクロス集計も行って傾向分析を行ってるんですけども、今回の協議会に合わせるために速報値という形で各設問の集計結果のみをお伝えするような形にはなってしまいうんですけども。

こちらの方で確認した中では、特質して大きく数値が変動したっていうものがあまり見られなかったんですけども、傾向として気になったのはですね、ページ4の設問(9)ご覧いただければと思うんですが。こちらが地産地消への関心に対しての設問になりまして、「関心がある」とお答えいただいた方が81%になっております。こちらはかなり高い数値が出ていることですか、あと飛びまして12ページの(21)ですね。こちらで「地産地消を応援しようと思いませんか」という、問に対して「既に応援している」もしくは「応援したい」という肯定的な回答をいただいた方を合わせると、約9割程度の方が肯定的な回答をしまして、こちら二つの設問を見ると地産地消に対する市民の方々の関心の高さがうかがえるような形となっております。

あとはですね、こちらに付随するといいますか、隣のページの(20)をご覧いただければと思うんですけども、地産地消のPRに使用している藤沢産のロゴマークですけれども。

「見たことがある」と回答された方が、今回3回目にして初めて4割に達しました。こちらについては、農家の皆様にご活用いただいております、こちらの割合が増えたことによって、消費者の方の目に触れる機会が増えたというような部分で成果が出ているのかなと考えております。

一方課題というか、ご覧いただきたいのが、ページ飛びまして14ページの(24)の設問で、「どういった情報があれば地産地消に取り組みやすくなると思いますか」という問いに対して高い数値が出ているのが、「直売所などの藤沢産のものが購入できる場所の情報」というところで、こちらが57.7%の数値を示していたりですとか、あとは次のページにいきまして(25)の「地産地消を進めるために効果的だと思う取り組み」というところで、「スーパーなどの量販店での農産物の販売」というところが63.8%という形で高い数値が出ておりまして、こういった普段の生活の中で利便性を考慮したような政策を市としても今後取り組んでいく必要があるのではなかと、アンケート調査を見て感じました。

特にですね、これまで市の広報紙ですとか、おいしい藤沢産の中でPRを行ってきたんですけれども、おそらくこの後の会議の中でもお話あるかもしれないんですが、今年度に入りまして秋から「おいしい藤沢産インスタグラム」の活用を始めました。こういったところから若年層の方に対して、地産地消に関心を持っていただけるような働きかけを合わせて進めていきたいなと考えております。

調査詳細については説明以上になるんですが、一番最後の(26)なんですけれども、こちらは自由記載欄となっております。紙面の都合もございまして、多くご意見をいただきました。紙面の都合もございまして、代表的な意見を抽出するような形になるんですけれども、こちらの資料とは別にですねご記入いただいた回答全てを記載しているような資料も別でございます。もっと詳細にどういった意見があったかご覧になりたい方がいらっしゃいましたら、本日お帰りの際にお声掛けいただければ冊子ご覧いただくこともできます。またこちらの協議会終了後、市のホームページにもデータを記載したいと思っておりますので、併せてそちらもご覧いただければと思います。説明は以上になります。

立石会長

はい、ありがとうございます。ただいま事務局の相原さんの方からアンケート結果に関する説明がありました。質問やご意見についてございましたらお願いいたします。

オンライン参加の方がいらっしゃいますでしょうか？林委員お願いします。

林委員

今回こちらのアンケートもすごく丁寧に意見を集めることができたのではないかなと思って、しっかり読まさせていただいているんですけれども、こういった意見を実際に活かし

ていくために、まず必要だなと思ったことがあるので、皆さんと共有できたらなと思うんですけれども。

まず一番最後の15～18ページの自由記載ですとか、こういった部分の意見をまずある程度グルーピングしていただいて、わかりやすくしていただけると色々なことが分析しやすいのかなと思いました。そこで優先順位や重要度とかっていうのが明確になってくると思うので、また何が解決していくことができるのかなっていうのを考えられると良いのかなと思いました。

後ほどホームページ記載しますということでお話があったと思うんですけれども、やっぱりこういった意見をいただいたからには、皆さんにきちんとフィードバックしていく必要があるのかなと思っていて、「こういった意見をいただいたので、じゃあどういったことを私達はこれから対応していきたいと思います」みたいなこともしっかり訴えることができるというのかなっていうふうに感じました。

投げたままだと、一生懸命書いたのに不完全燃焼で何かモヤモヤみたいな人も多分いると思うので、そういったことができるすごく親切なのかなというふうに感じてます。

またそういったフィードバックの仕方も具体的には、私が思いついた部分でのお話なんですけれども、サンパール広場で実施しているマルシェでスクリーンを作ってQ&A方式だったり、生産者の方に来ていただいて、クイズとかゲームみたいな形で、何か参加型のイベントを考えたりとか、そういった形でより浸透していくような、そういったことができればいいのかなというふうにアンケートを見ていろいろ感じました。

立石会長

貴重なご意見ありがとうございます。

そうですねアンケートを取りっぱなしというよりもできるだけフィードバックするっていうのは非常に重要なことだと思います。

たくさんありますので、全てに答えるとか全てに対応していくという非常に大変なんじゃないかなと思うんですが、その辺はこちらの委員会で検討しながら必要に応じてできるところからやっていると、市民の方との交流に繋がって、こういった取り組みが良くなっていくのではないかと考えております。具体的にできるかどうかは、事務局の方でもご判断いただきながら進めていければいいかなと思います。事務局の方で何かございますか。

相原（事務局）	貴重なご意見ありがとうございました。今のご意見を参考にしながら事務局の方でもまずどういったところからフィードバックできるのか検討してまいりたいと思います。
立石会長	はいありがとうございます。他にご意見等ございますでしょうか？特にないようですので、議題3その他になりますけれども、委員の皆様から何かございますでしょうか？お願いします。
高橋副会長	先ほどのことになってしまいうんですが、11ページ(20)の「藤沢産ロゴマークを目にしたことがありますか」で、私の方ではわいわい市の藤沢店で一生懸命見てるんですが、藤沢産のシールを貼ってある野菜はまだ少ないかなと思います。野菜の方はもう少し増やして欲しいですが、他の商品についても藤沢の麦を使っているパンとかお餅とかですね、そういうものにもシールを貼っていただければなと思います。また、シールを貼ることのメリットも考えていただきたいなと思います。 以上です。
立石会長	高橋委員の方からこのような意見がありました。シールは余裕があるんでしょうか。
相原（事務局）	シールは今年度も増刷をしておりますので、直接ご申請いただいておりますし、個人の農家ですと1回に4,000枚という形でお渡ししてるんですけども、大きなマーケットになるともっと多くの量をお渡しできますので、そういったところへの働きかけですとか、積極的に使っていただけるように農家さんへの周知といいますか、再度のお願いといいますか、そういった部分で働きかけも今話を聞いて検討していきたいなと思いました。在庫の方には余裕がございますので、年々農家さんからのお声がけも増えてきているところではあるので、浸透していけるように、事務局としても働きかけしていきたいと思います。
立石会長	だいぶ認知度が上がってきたということで、計画そのものは進んでいるのではないかと考えておりますので、引き続きよろしくお願ひ致します。その他大丈夫でしょうか。 そうしましたら以上をもちまして、藤沢市地産地消推進協議会の本日予定してました議題は全て終了いたしました。

一旦司会進行を事務局にお返しいたしますよろしくお願
いします。

竹中補佐

ありがとうございました。

これをもちまして第53回藤沢市地産地消推進協議会を閉
会とさせていただきます。

引き続き、令和4年度第2回藤沢市地産地消推進事業実行
委員会に移らせていただきますので、立石委員長よろしくお
願いいたします。

令和4年度第2回藤沢市地産地消推進事業実行委員会

1 開会

立石委員長

引き続き、令和4年度第2回藤沢市地産地消推進事業実行
委員会に移らせていただきたいと思ひます。

2 議 題

立石委員長

それでは、「議題（1）藤沢市地産地消推進事業実行委員
会事業進捗状況について」、事務局から説明をお願いします
す。

河原崎（事務局）

まずは3-1の資料をご覧ください。3月17日時点収支決
算書になります。上段収入の部につきましては、予算額に対
してイベント参加料の増加がございまして7,498円の増とな
っております。続いて下の方の支出の部につきましては、予
算決算の差額が97万4,916円となっておりますが、備考欄に
執行予定額を記載させていただいております、全てが予定
通り執行できた場合の執行残は10万9,756円となっております。
執行状況の詳細につきましては、資料3-2に記載のと
おりとなっております。

各委員にご報告申しあげたいところといたしましては、一
番上の段ですね新たな一次産品の創出に向けた農産物の試作
支援とですね、重点的に取り組む政策の一番下の段の動画P
Vの作成にかかる予算については両事業とも執行の見込みが
現時点ではない形になっております。よって事務局の方で執
行残として残すよりはというところで、関連施策に予算を振
り分けさせていただくような調整をさせていただきながら、
今事業の方を実施させていただいているところです。

事業報告の詳細なご説明に関しましては、資料4を使いな
がら説明をさせていただきたいと思ひます。まずスライドの
一つ目といたしまして、「新たな一次産品の創出に向けた農

産物の試作品支援」に関する事業の実施状況になります。こちらにつきましては令和5年の1月30日に、神奈川ブランドの審査会が開催されまして、「湘南土ねぎ」が新たに神奈川ブランドに登録されました。こちらについては新しく登録された一次製品の包装費用などを予算化していたところなのですが、予算の執行はありませんでした。お金は使っていませんが事業としては進捗があったものになります。

続きまして「未利用魚を活用した加工品の開発支援および学校給食での活用」ということで、市場において低価格で評価されてしまうカタクチイワシを市内の漁業者さんに煮干しに加工していただきまして、小学校給食で活用するというところを行いました。こちらに対して煮干しの代金ですとか、各学校への振り分け・配送費用を実行委員会の予算で負担させていただいております。令和5年度以降も継続して学校給食で使っていただく予定になってまして、その際は原則としては給食費の方で賄われるような予定となっています。

事業として工夫したところは、煮干しに加工することによって保存ができるようになったりとか、出汁として使用することによって1食あたりの規格の統一を図るであるとか、あとは骨によるトラブルを回避したりというようなところを工夫しながら事業を実施したところでございます。

同じ項目になりますけども、イワシ以外にですね、漁業者に聞き取りを行ったところ、江ノ島沖の定置網で漁獲される400グラムに満たないサバが低価格で取引されてしまうとお伺いしましたので、それを活用できないかということで、加工業者や配送業者、学校給食課と協議を進めてまいりました。協議の結果、8,000食分を学校給食で使っていただけるということで調整がついたので、それにかかる原材料を実行委員会の予算で負担することにしておりました。また給食以外にも水煮という形で加工品開発することもできるということだったので、それを試作するための費用も実行委員会で負担を予定しておりました。ただ、加工や活用できるところまでは話がついたんですが、肝心サバが採れないため、予算の執行が今のところできていないというような形になるので、本事業の部分に関しては執行残となる可能性が高いものになっております。

続きまして藤沢産農産物を利用した加工品開発支援といたしまして、価格下落している一方で、肥料などの生産資材高騰が長期化しており、米作りの継続が困難になっていることから、藤沢産米に付加価値を付ける取り組みとして、酒米の生産を支援しました。実行委員会予算から、酒米の苗代を負担しました。酒米は、茅ヶ崎の蔵元「熊澤酒造」に買い取られ、一部は2月4日から販売された日本酒に使われております。また、現在全量藤沢産の日本酒も別途作っていただい

おりまして、仕込みが始まっております。6月頃に販売の予定です。完成しましたら市内の地酒の専門店で販売を予定しているほか、ふるさと納税の返礼品に登録し、市内外に藤沢産をアピールできればいいかなと思っております。

続きまして、同じ加工品開発の支援のところで、藤沢産農水産物の価値を高めて6次産業化の取り組みを推進するためということで、市生産者、加工業者で藤沢マイスターとして登録していただいている茶師の方にもご協力いただいて、サツマイモをお茶で煮るなどして、干芋に加工する取り組みを支援しました。こちらについては今年度試作までできましたので、現在、賞味期限の検査をしております。できれば次年度に引き続いて取り組みを支援して商品化できればいいかなというふうに思っております。

続きまして例年通りの事業になりますが、小糸小学校において、市内で搾乳された牛乳等を使用したバターづくり体験事業を実施し、市内畜産業への理解促進、地産地消及び食育の推進を図りました。同日にやまゆりポーク生産者協議会と連携し、畜産の授業も行っております。

続きまして、またの保育園に湯澤委員を講師に招いて講義を行い、園児との交流を行いました。またの保育園への藤沢産農産物の提供は今年で3年目ですが、生産者と園児の交流は今回が初めての取り組みです。実物の稲に触れる体験や動画視聴を通じ、園児にもわかりやすい講義をおこないました。

続きまして地産地消イベント事業になります。昨年度までに実施していた「みなと春マルシェ」にかわるイベントとして、有機農業に着目したイベントとして、「藤沢産オーガニックマルシェ」を11月26日に辻堂の神台公園で開催しました。天候不良により、急遽日程を延期したほか、延期後の日程も朝から雨の悪条件でしたが、500名以上に会場いただき、有機野菜を生産者から直接買える貴重な場として、継続実施を求められるなど、好意的なご意見をいただいております。年度末に再度開催することを検討しましたが、端境期で品物が揃わないことから、今年度は1回限りの実施となりましたが、次年度以降は定期的を開催して、有機農業の理解促進を図りたいと考えております。

続きまして、こちらも例年通りの事業になりますが、子どもを対象として「花育体験イベント」など、藤沢の花をアピールする取り組みを行いました。

動画作成の外注については、高額な作成費用がかかるため実施しませんでした。YouTubeには事務局職員がスマートフォンで作成したショート動画4本を投稿しております。今後のYouTubeについては、引き続きスマートフォンで作成可能な簡易なショート動画を投稿しつつ、特に動画でPRが有効

と考えられる場合には、外注での作成も検討したいと考えております。また、市広報シティブロモーション課と連携し、市の広報番組に「おいしい藤沢産」を取材していただき、広報番組の翌日にはYouTubeに公開されますので、そのような媒体を活用しながら、映像によるPRを行っています。

続きまして、協議会の方でもお話がありましたけれども「藤沢駅周辺版」「片瀬江ノ島駅・鵠沼海岸駅周辺版」のニーズが高く、年度途中で在庫が無くなったため、食べ歩きマップの内容を最新に更新するとともに、増刷しました。増刷にあたり、「藤沢駅周辺版」「片瀬江ノ島駅・鵠沼海岸駅周辺版」の英語バージョンを作成しました。配布したマップについては、ホテルや観光案内所で配架しております。

最後、こちらはアンケートの結果にもありましたけれども量販店用のPR物品を作成し、藤沢産コーナーの設置促進を図りました。新たにPR物品を設置した量販店は、ご覧の6店舗となります。

議題(1)の説明は以上となります。

立石委員長

ただいま、事務局から説明がありました。ご質問やご意見などがございましたらお願いします。

林委員

いくつかあるんですけども、まず「藤沢産農産物を活用した加工品の開発支援」の部分で、藤沢産のお米全量の日本酒を造るということで、こちらは今回限定なのかそれとも今後も継続して作っていく予定なのかが1つ目。

次の次のページで保育園児との交流に係る講師謝礼ということで、湯澤委員が講師をされたということになりますけれども、こういった保育園児との交流はすごく重要なことで、これからの未来のためを考えてもすごく重要になってくるのかなと思うんですけども、こういったところをもう少し予算をたくさん取って、例えば湯澤委員1人だと大変だと思うので、シーンを作って色々な保育園を回っていただいたりとか、逆に園児に畑や田んぼに行く機会を作るといったことを出来ると良いのかと感じました。他の課とも連携してくる部分で、地産地消だけではないんですけども、そういったところを感じてます。最後なんですけど、一番最後のページで藤沢産利用推進店の新しい食べ歩きマップの作成ということで、ホテルや観光案内所におきますということなんですけれども。こちらは置き場所としては、例えば、藤沢駅、江ノ島駅、鵠沼海岸駅こういった駅にも置く予定があるかどうか以上3点です。

立石委員長

はいどうもありがとうございます。

今3点ほどご意見ご質問という形も出ていますが、まず一つ目の部分で藤沢産農産物を活用した加工品開発支援ということで、藤沢産の酒米で日本酒を造っているということです。これは今回のみの予定かどうかというところでしょうか？

河原崎（事務局）

結論から申し上げますと、この取り組みについては継続をしていきたいと思っています。理由といたしましては、お米の値段が下がっていて市内の稲作の継続が難しくなっている。このままでは市内の田んぼが減少することに農業水産課としても危機感を持っていて、藤沢産のお米に付加価値をつけて高く買い取っていただいて、農業者の方に稲作を継続していただきたいという思いがございます。当然他にも複合的な取り組みを進めていく必要があると思いますが、その一つとして、まだまだ熊澤酒造さん側には、酒米の引き受けに余力があるといえますか、買い取り量は増やしていくことができるということだったので、実際今年も酒米の生産者が増えて取り組みを進めていくような予定になっております。

立石委員長

続けて保育園についてお願いいたします。

落合（事務局）

今回、モデルであります「またの保育園」を対象に園児との交流事業に取り組みさせていただきました。そして湯澤委員にご協力をいただきました。これまで新米と大豆を給食に提供しておりまして、それに加えて今年度は実際に交流の場を設けたという話になります。私も同席させていただきました、実際に稲を触っている園児たちを見てですね、すごい興味・関心を持っていただいている、食育に繋がるなど実感したところでございます。なのでこういった取り組みをどんどん拡大したいと思っておりますので、色々な農家さんのお知恵をいただいたり、そして農協とも連携を図りながらより充実した内容にしていきたいなと思っております。

立石委員長

引き続き食べ歩きマップの方よろしいでしょうか？

河原崎（事務局）

駅にはですね現状配架はしておりません。ただし駅周辺にある観光案内所であるとか、藤沢駅で言うと南北の自由通路のところにコンシェルジュがありますので、そちらの方に配架はさせていただいています。駅周辺のそのような施設で手

にとっていただくことはできる状況になっています。

林委員 一番最後の部分。例えば鵜沼海岸駅とか江ノ島駅というのは、ホテルに泊まっている方とかじゃない、例えば都内からとか直接その駅に着いて、どこに行こうかみたいな感じになる状況ってあると思うんです。そのとき手元にマップがあるとなすごく便利だと思うんで、観光案内所や藤沢駅ももちろん必要なところなんですけど、駅にもあると便利じゃないのかなっていうふうに私は感じるんですけども。他の委員の皆さんはどう思われますでしょうか？駅に置けない理由があるのでしょうか。

河原崎（事務局） 事務局で何らかの意思があって、駅に配架していないということはありません。特にその鵜沼海岸駅の立地の状況を考えるとその通りだなと思うので、配架場所の一つとしてご検討はさせていただきたいとは思いますが、ただし最終的には鉄道事業者の方の判断になりますし、過去の別事業でポスターを貼らせていただくようなご相談をしたこともあるんですが、どうして鉄道関係が優先にはなってくるっていうところもあるので、相談をしてみたいと思います。

立石委員長 先方があることですのでまずは聞いてみる必要があると思いますので、その上で進めていただければと存じます。
ちょうど林委員のところからの質問で保育園との交流についてお話が出ておりましたけども、こちらにいらっしゃいます湯澤委員が、講師を務められるということですので、それについて感想をいただけますでしょうか？お願いします。

湯澤委員 先ほど林委員の方からご指摘あった通り、食材提供は今年度で3年目で実際に講師として園児と交流したのは初めてなんですけども。まず率直な感想としましては、お子さんなのでお米に対してとか栽培に対して云々っていう難しい説明は、今回できる限り省かせてもらいました。お米の穂を見てもらって、「お米はこういうところに、このようについてくるんだよ」というざっくり形ですかね、説明をさせていただきました。先ほど落合さんの方からもお話のとおり、大変その興味を持っていただけてます。なので私はその時思ったことというのは、今回「またの保育園」1ヶ所の場所でやってくれるんですけども、やはり藤沢市内にある全ての保育園なり、できれば小学生ぐらいの学生さんの方にも水田なり畑なりを見ていただいて、触れ合っていただく時間をぜひ教育の場所

として提供できますので、学校側は教育側の方からそういう場所を大いに活用していただきたいと思ったのが率直な感想です。

立石委員長

どうもありがとうございます。

農業教育としては非常に適切な形で、今後の藤沢市の農業振興に繋がっていく大切な事案だと思いまので、講師の先生はなかなか大変だとは思いますが、そういったお力を貸していただける方がいらっしゃれば積極的に推進していただければなと思います。

その他ございますでしょうか？

高橋副委員長

先ほどの食べ歩きマップの件なんですが、こちらの方はですね、以前携わった藤沢観光名産品協議会の中で、そのようなイベントを藤沢でやってたと思うんです。小田急とかから、駅に何か置けるものがないかというようなことで、問い合わせが何かあったような気がするので、そちらの藤沢観光名産品協議会の方と打ち合わせとかお声がけをしていただければなと思います。

それとですね、園児たちとの交流なんですが、コスモスの摘み取りですとか、農協の方の各支店でですね、サツマイモ堀りとかそういうものやってると思うんです。そういうところからですね、種まきの方から収穫までですね、体験させていただければ、いろいろな野菜をどこで売ってるんだというようなことで問い合わせが結構あるんです。そういうところに参加していただければ、そういうのは解消されていくのではないかなと思いますので、その辺のご検討をお願いしたいなと思います。

立石委員長

高橋委員ありがとうございます。

これについては検討していただいて、取り組みが進められるよう、よろしく願いいたします。その他よろしいでしょうか？特にないようですので、議題の二つ目ですね。今後の実行委員会の取り組みについてということで、議会事務局の方からご説明をお願いいたします。

河原崎（事務局）

続いての議題が「今後の実行委員会の取り組みについて」となりますが、次第の裏面に記載の実行委員会の部会ごとにわかれて、お話し合いを進めたいと思っています。事務局の方で会場のレイアウトの変更、それからオンライン参加者におかれましても、部屋を分けるような手続きをさせていただ

きますので、10分程度お時間をいただければと思いますので、休憩も兼ねて再開をですね3時20分からとさせていただきますので、よろしく願いいたします。

■部会に分かれて話し合い■

立石委員長

限られた時間でしたけれども、部会ごとの意見交換はここで終了とさせていただきますして、それぞれの部会からの話し合いの結果について報告をお願いしたいと思います。初めに藤沢ブランド創出について話し合った結果を事務局の方からご報告をお願いいたします。

河原崎（事務局）

意見といたしましては、給食で活用することになった煮干しについて、給食だけではなく、一般で販売するような活用の仕方をしてもいいんじゃないか。軽くてかさばらないというところが消費者の方にとっても手に取りやすかったりとかお土産になるような要素もあるんじゃないかっていうようなご意見をいただきました。

それから新たな一次産品を創出するにあたって、県内の取り組みをご報告いただきまして、有害鳥獣対策として青パイヤや葉ニンニクといった被害に遭いにくいような新たな農産物を作付していくような動き中のものがあるので、そういったものを踏まえて何を作っていくのか考えていくというのも一つ方法ではないかのご意見もありました。

それから藤沢ブランドを創出するにあたって、ターゲットやネーミングとかパッケージとかPR方法であったりとか、そういったところも大切な要素で合わせて考えていかなきゃいけないってところもご意見としていただいている、どうしても「藤沢」という名称よりも「湘南」であったりとか、「江ノ島」という名称の方が認知度が高いってというようなところがありながら、そのように藤沢をPRしていくのがいいかっていうところに関してネーミングやパッケージが大切ですよってというようなお話がありました。

それから、消費者に対して農水産物を手に取ってもらう場合に「飲食物+αの付加価値をPRする」というのもSDGsの視点から考えて非常に重要になっていて、既存の取り組みで、食品残渣を飼料として活用して育てた豚肉などの取り組みがあって、そういったものは食品以外にもフードロスとか環境保全とかそういった観点でも価値がある商品になっていて、そういったところが一緒にPRできるものもいいんじゃないかという意見がありました。当然この場で何をするというところ

ろの具体的なところまで決めることはできなかったんですけどもそういったご意見を踏まえて来年度につきましては、新たに生産者が取り組む一次製品の創出に向けた支援をさせていただければというような形になっています。

立石委員長

はい、ありがとうございます。

そうしましたら続けて藤沢産農水産物等の学校保育園給食供給強化についての話し合いの結果の方もお願いします。

落合（事務局）

未利用魚の活用検討として、400g以下のサバを活用した献立を学校給食で提供する計画でいたんですけども、なかなか魚が取れないといった状況がございまして、今年度の実施は難しいという判断ではあるんですけども。令和5年度につきましても、引き続きそういった取り組みを進めていくべきではないかというようなご意見をいただきました。

それに加えてなんですけども、サバに限らずいろんな未利用魚が採れると思うんですけど、それをミックスして「つみれ」のようなものにして冷凍して何かしらの献立のメニューとして使うっていうのもどうかなっていうような意見をいただきました。

給食の献立に取り入れていただくために、早め早めに取り組んでいるという背景もありますので、すぐに学校給食課と連携をして進めていった方がいいんじゃないかというようなご意見をいただきました。

その他にですね、学校によってそういった食育とか農業体験にばらつきがあると。ここの学校では例えばプランターで稲作体験を実際にして、粃をすり鉢ですって実際に家庭科の授業でご飯を炊いて食べたというような体験をしている学校もある。学校よってそういう体験をしていたりしていなかったりというようなことがあるようなんですけど、いずれにしても色々な体験をさせるのが一番やっぱり効果的だろうという話がありました。

さらにですね地元の中でやっぱり繋がりは深めていくべきだろうと。特にですねここに来てコロナが緩和された背景もありますので、体験を今後増やしていった方がいいんじゃないかというようなご意見もいただきました。

あとですね今後、学校給食で藤沢産を提供していることを保護者にもしっかりと情報提供していくのが一番効果的だろう。給食だよりなどには藤沢産のロゴマークが付いていたりするんですけども、そういったので、あるいはもう現在もしているんですけども。もっともっと情報発信した方がいい

と。さらに言うのですね、なかなかできるできないがあるとは思いますが、実際に保護者も畑に来てもらって、そういった栽培の過程を見てもらって、実際に子供たちと収穫をしてもらったり。そういった保護者も巻き込んだ取り組みっていうのも効果的なんじゃないかというようなご意見をいただきました。

最後になりますけども、保育園交流事業で、今年度は湯澤委員にご協力をいただいて実施をしました。先ほど湯澤委員からもお話があったようにですね、栽培の過程とか、なかなか難しい話もありましたので、もう少しレベルを下げて興味を持ってもらえるような内容にした方がいいんじゃないかということで、ただ単に聞くだけじゃなくて、見て触って楽しんでもらう内容に見直した方がいいんじゃないかなということで。例えば本の読み聞かせですとか。クイズ形式にしたりとか、そういったですね、もう少し5歳児6歳児が興味を持ってもらえるような内容に見直してもよいかなどご意見をいただきました以上になります。

立石委員長

はい、ありがとうございます。

次に地産地消普及啓発部会の話し合いの結果の報告をお願いします。

相原（事務局）

地産地消の普及啓発部会のほうの話し合いのまとめを説明させていただきます。

いろいろとご意見いただいたんですけども昨年度の実施した事業に関連して、次年度どうしていこうかというところの話し合いをしていたんですけども、まず今年度初めて取り組んだオーガニックマルシェについてど今後のご意見をいただきました。主に来年度も行っていく前提でどうしたらさらにイベントが盛り上がるかというところのご意見をいただいたような形なんですけども。例えばまずご意見いただいたのが、市内産のオーガニック野菜を活用した加工品の販売です。例えばお弁当の販売ですとか、6次産業化を絡めたような何か加工品の販売をしてみたらどうかというご意見がありました。

またですねコロナの状況も少しずつ落ち着いてきておりますので、何かそのイベントの中で試食を実際にその場でできるような企画もあつたら楽しいのではないかというご意見もいただきました。今年度につきましては、11月に開催しているのですけれども、この時期に設定しているのが、出店いただいている皆様が露地野菜の方がメインになるので、どうして

も収穫物の関係でこの時期を合わせているんですけども。もし回数を拡大していくのであれば、野菜も時期的に増やすのであれば夏場なのかなというところの話があったんですけども。夏場だとやはりここ最近かなり高温になる可能性もあるので、もし回数拡大で夏にやるのであれば屋内実施等の検討もしていったらいかがかというお話もありました。オーガニックマルシェについては以上です。

あとは花の寄せ植え体験に派生してのお話になるんですけども。本日もそうなんですけれども庁舎の入り口のところです。実際に藤沢産のお花の寄せ植えが展示してあるんですけども。これは事務局側からの投げかけになるんですけども、商店街さんですとか、あと今日参加の皆様の団体の各方面でもそうなんですけれども。ぜひお花もこういうところで展示したいなっていうご要望があればですねご相談いただければというところを投げかけさせていただきました。

次にInstagramですとかSNSの活用の部分での皆様からご意見をいただいたんですけども、まず消費者として欲しい情報というのが先ほどのアンケートの中もありましたが、直売の情報だったりとか、あとは近くでどこで買えるのかっていう情報がやっぱり一番知りたい情報なんじゃないかっていうご指摘いただきまして、一つ案としては現在運用中の農業水産課のInstagramもあるんですけども、各農家さんもですね、かなり積極的にInstagramをやっている農家さんがかなり多いので、こちらから例えば農家さんのInstagramのアカウントの紹介をして、そこに飛んでいただくと各農家さんがその日何時から何時という野菜を出しているっていうのをあげている方もいらっしゃるんで、その細かい情報に繋げるような橋渡しできたらなというところでご意見いただいた上で考えたところでございます。

あとはJA方でもブログをやったりとかっていうところもあるというお話もありましたので、他の機関のそういったSNSの発信ですとか、そういった部分での連携もしていけたらなと思いました。

あとですねご意見としていただいたのは、全般的にそうなんですけれども何かイベントですとか、施策を行っていく中ではっきりとした数値目標というか、実際に取り組んでみて成果がどうだったのかっていうところを目で見てわかるようにしていった方が、どれぐらい地産地消が進んだかどうかっていう指標にもなるので、何か取り組みを行っていく際には数値目標の設定もして欲しいというご意見もございました。

これはうちの部会に限らず、全般的にこういった部分は検討していくべきだなというところがございました。

あとですね全体的な話の中で消費者の方へのインセンティブという部分で購買意欲促進に繋がるような取り組みの中で一つ案として出てきたのが、藤沢産ロゴマークシールを農産物に貼っていただいているんですけども。例えばロゴマークシールを集めて応募してもらって、何か農産物をプレゼントするような農家さん側も貼るきっかけに繋がるかもしれないので、そういったロゴマークシールと絡めた企画というか、そういったところもどうですかという話がありまして、ぜひやり方の検討はですね、何年間も買ってる方がシールを趣味でロゴがかわいいから集めてるような方もいらっしゃるような話がちらっとありましたので、期間区切ったときに、過去のシールが混ざったりとか課題はありそうなんですけれども、既存のシールと今の制度絡めて何か運用を検討していきたいなというところで、ぜひその中でインセンティブの部分で農産物のプレゼントに対しての費用、もし計上できるのであれば普及啓発部会からの一つ提案としてプレゼントの農産物の部分でも予算計上をお願いしたいというところの話がありました。

あとは最後になるんですが、課題としてなかなか若い世代への農産物というか地産地消の意識の部分で保育園とか小学校はこちらから実際に授業に行ったりして農家さんと接する機会があるんですけど、もう少し上の層ですね中高生だったり大学生だったりとか、そういった部分でなかなか意識啓発っていう部分がなかなか難しい部分があるので何か実際にもうちちょっと上の層の学校に赴いたりとか農家さんと接するような機会をぜひ作っていただくというご意見がございました普及啓発部会からの報告は以上になります。

立石委員長

はい、ありがとうございます事務局の方から部会ごとの意見交換についてまとめていただきました。

そうしましたら最後に長期的に取り組む政策につきましても何か意見がございましたら、お願いしたいと思うんですが。よろしいでしょうか？そうしましたら、全体を通して何かございましたらお願いしたいんです。

特にないんでしょうか？そうしましたら出てきました意見等を踏まえまして、来年度の事業計画と予算調整については事務局の方で作成していただきたいので、どうぞよろしく願いいたします。

これをもちまして本日の議題は全て終了いたしました。ご

協力によりまして会議を円滑に終了しました。ちょっと時間押してしまって申し訳ありません。ご協力に感謝申し上げます。それでは進行の方は事務局にお返しいたします。

竹中補佐 立石委員長どうもありがとうございました。では最後にですね、饗庭経済部長より挨拶をしたいと思います。

饗庭部長 皆さん、長時間にわたりまして熱心にご議論ありがとうございました。また本日は年度末の大変忙しいというこれだけの委員の皆さんお集まりいただきまして誠にありがとうございます。振り返りますとこの1年というは、社会全体が何か揺れている状況で、全ての値段が上がった1年かなと思っています。そういった中で生産者は大変厳しい状況が続いていましてそれに対しても市の方は支援重視の施策に没頭した1年かなと思っています。

ただ今回アンケート調査をとったところによると、市民の皆さんは目の前にあれば買いますっていう人が相当いる。ポテンシャルがあるかなと思ってますし、またこの湘南ブランドを外に売っていくっていう情報も安定した供給ができれば各地でブランド品として売っている野菜とかお魚とかありますけれども、それに続いていけるものがポテンシャルがあるように感じてますので、本日いただいた意見をですね反映させていただいて、次回の会議の際にはですね、具体的な施策を進めていくための素案をお示しして、またご議論いただきたいと思います。

本日はありがとうございました。

3 閉 会

竹中補佐 ありがとうございました。
それではこれをもちまして令和4年度第2回藤沢市地産地消推進事業実行委員会を閉会といたします。
本日は長時間にわたり誠にありがとうございました。

終 了